

資料 2(1) データからみる民生・児童委員の取り巻く地域の現状**地域福祉の現状**

今年度は、民生・児童委員の改選期です。

千葉県条例で、民生・児童委員の定数を改正。

民生委員・児童委員			主任児童委員		
配置基準:人口 10 万人以上の自治体は 170～360 世帯に民生・児童委員が 1 人			配置基準:1 地区に 2 人配置 15 地区あり		
定数	H28	R 元	定数	H28	R 元
委員	235 人	244 人	委員	30 人	30 人

民生委員法・児童福祉法に基づき、厚生労働大臣及び千葉県知事より委嘱を受け、地域に設置。その活動の主なものは、地域福祉の推進役として低所得世帯・高齢者・障がい者・ひとり親家庭等の問題を抱えている人々の生活上の相談等に応じるとともに、行政とのパイプ役。

民生・児童委員を取り巻く地域の現状は**A) 低所得世帯**

- ① 生活保護世帯・人数
- ② 生活保護世帯の状況
生活保護世帯の状況 類型別
- ③ 生活保護の扶助別人数

B) 低所得世帯の子ども

- ① 経済的に困難を抱える児童・生徒の割合
- ② 小学生（要保護児童・準要保護児童）
- ③ 中学生（要保護生徒・準要保護生徒）

C) 高齢者

- ① 要介護（要支援）認定者の割合 千葉県 37 市
- ② 年代別介護認定者数 木更津市 H34.4 月末
同年代の高齢者でみた介護認定者

D) ひとり親世帯

- ① 児童扶養手当の受給状況

**E) 障がい児・障がい者
特別な支援が必要な子ども**

- ① 障がい児・障がい者の状況
- ② 特別支援学級の状況
- ③ 小学校の特別支援学級の状況
- ④ 中学校の特別支援学級の状況

F) 児童虐待

- ① 児童虐待相談件数 経年推移
- ② 被虐待者の年齢別の件数
- ③ 児童虐待の状況 主な虐待者別
- ④ 児童虐待の状況 主な虐待者の構成割合
- ⑤ 児童虐待の状況 種別

G) 長期欠席児童・生徒

- ① 長期欠席児童の理由別人数
欠席児童 欠席日数別
- ② 長期欠席生徒の理由別人数
欠席生徒 欠席日数別
- ③ 不登校児童・生徒の割合

H) 外国人

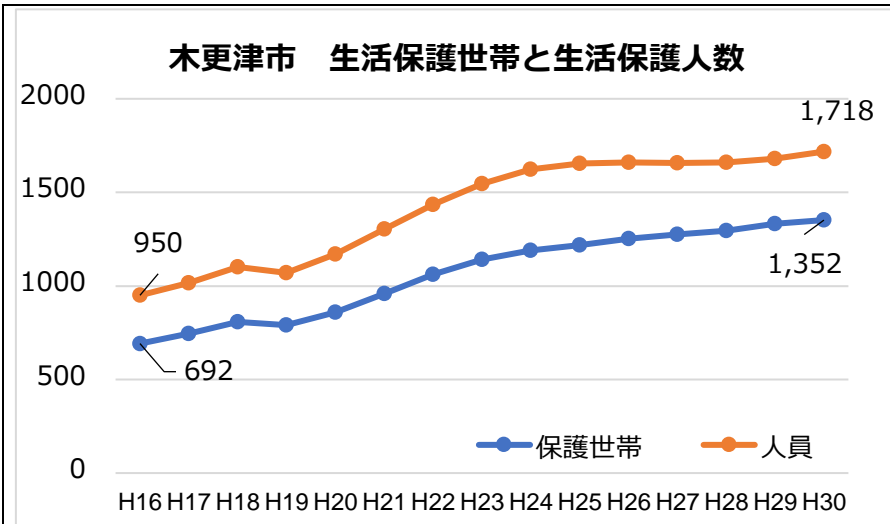
- ① 外国人 年齢別分布
- ② 外国人の年代別 構成割合

I) 妊産婦・母子保健

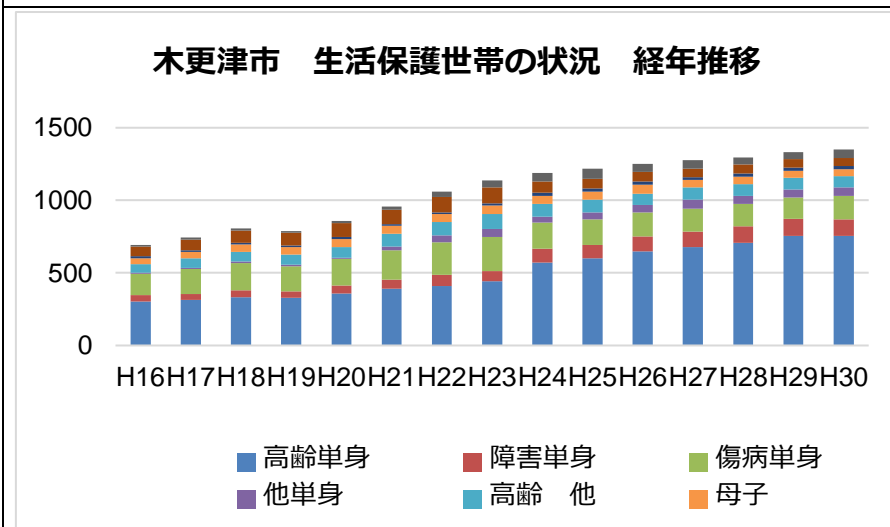
- ① 母子保健に関すること
- ② 3 歳児健診を受けていない幼児数

A) 低所得世帯

出典:福祉行政報告例

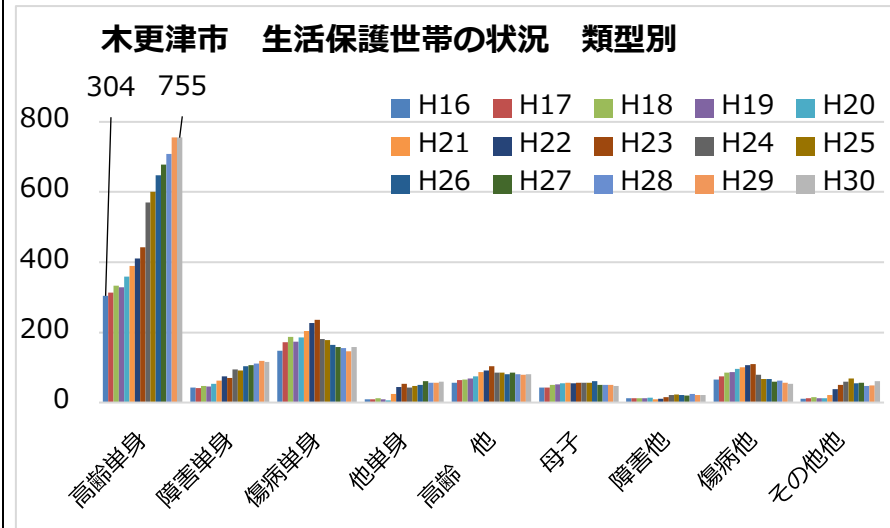


① 保護世帯と人数ともに、増加傾向
世帯数と人数に隔たりが少なく、単身世帯が多いと思われる。



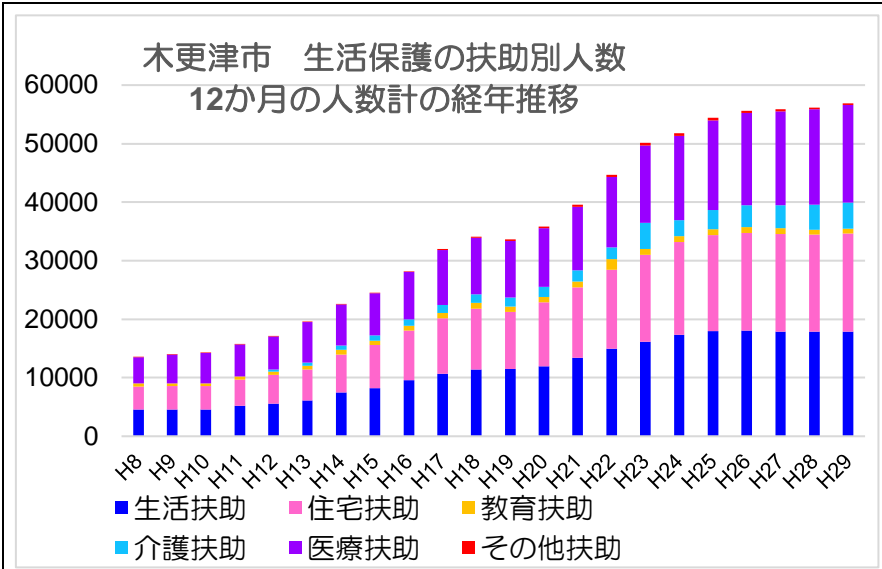
② 世帯の状況をみると、単身世帯でも、高齢者、障害者、傷病者、母子世帯など、さまざまであることがわかる。

↓ 類型別のグラフにすると

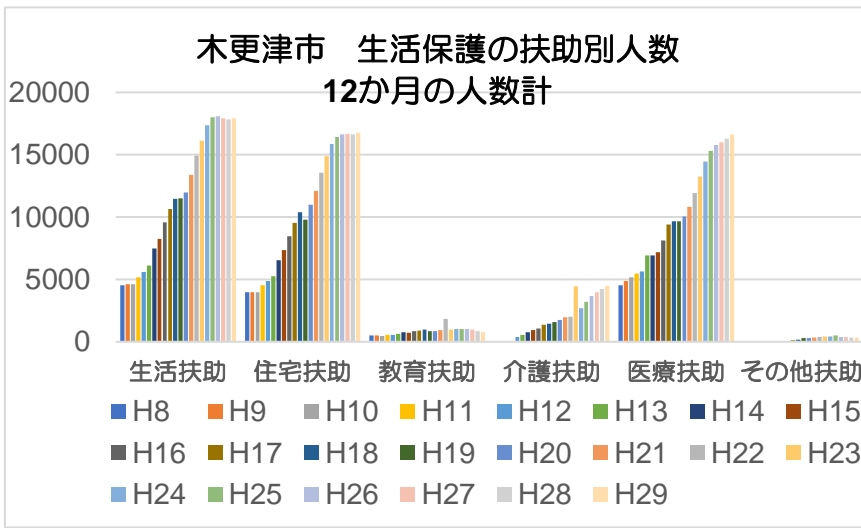


類型別にみると、もっとも多く、増加が著しいのが、
 ・高齢者の単身
 ・障害者の単身も増加傾向
 ・単身でなくても、傷病により、生活保護世帯となる場合もH25年度にピークがあったことがわかる。

資料 2(1) データからみる民生・児童委員の取り巻く地域の現状



↓このデータを別のグラフで表すと



③ 毎月の人数を合算したものであるが、生活保護の扶助人数も年々増加傾向であることがわかる。

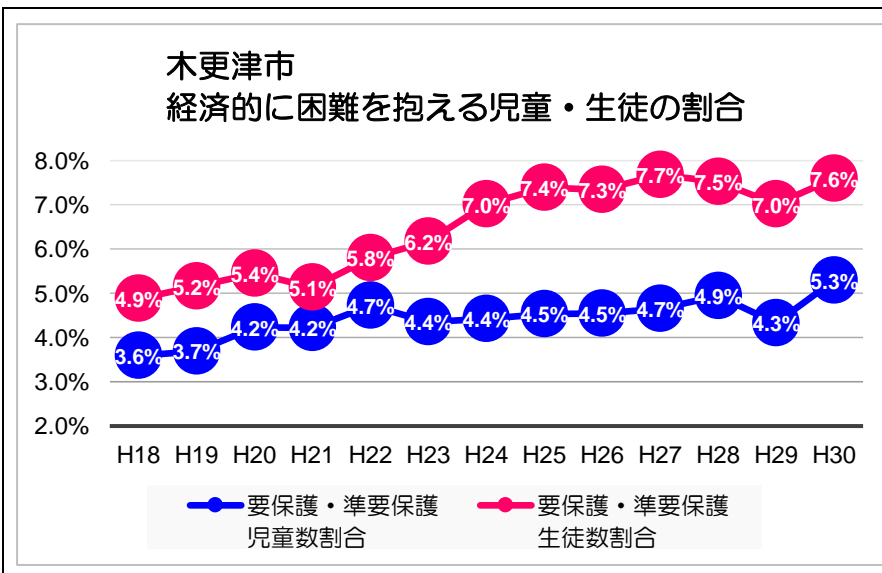
特に増加傾向の扶助は、生活扶助、住宅扶助、医療扶助、そして、介護扶助も増加している。しかし、教育扶助は増加していない。

H26 年度から横ばいになっている理由は、扶助が必要な世帯、不要になった世帯があり、結果的に特に変化が見られない。

医療扶助は、高齢者が多いため、増加傾向だが、H30 年度はジェネリック薬の推進対策で今後効果が表れると考える。

B) 低所得世帯の子ども

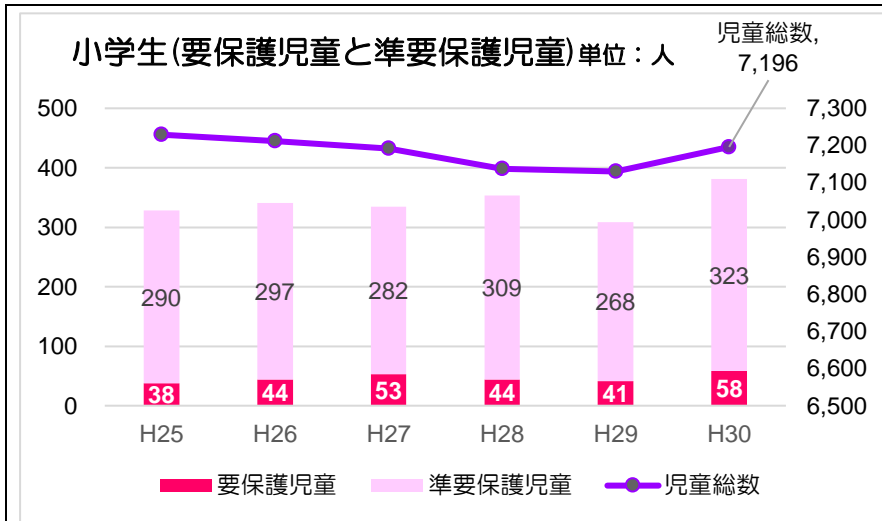
出典:木更津市



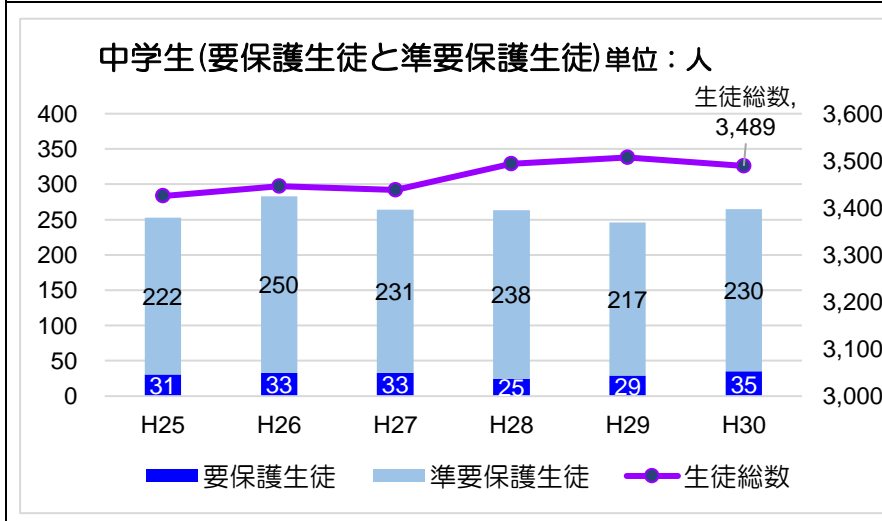
① 小学校よりも、中学校に、経済的に困難を抱える生徒が多い。

また、H29 年度は、一時的に下がったものの30年度は、H28 年度の延長線上の増加。

資料 2(1) データからみる民生・児童委員の取り巻く地域の現状



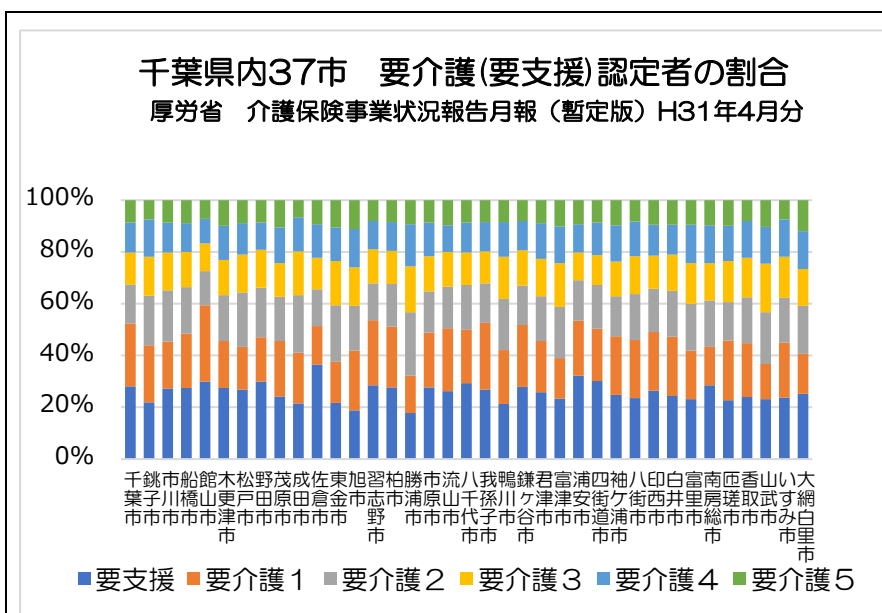
② 小学生でH29、30年度をみると、全児童数は増加し、経済的に困難な児童の割合も増加。



③ 中学生でH29、30年度をみると、全生徒数は減少し、経済的に困難な生徒数は増加。

C) 高齢者・介護認定者

出典:厚生労働省「介護保険事業状況報告」

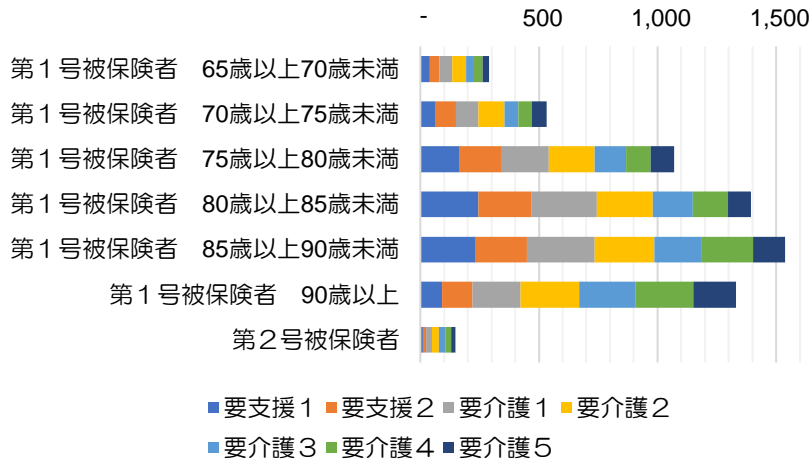


① 千葉県内37市で比べると、木更津市の 要介護(要支援)認定者の割合は、突出することなく、平均的である。

(要支援の割合が意図的に多い自治体は、市の政策で認定基準が厳しいのではと推察する)

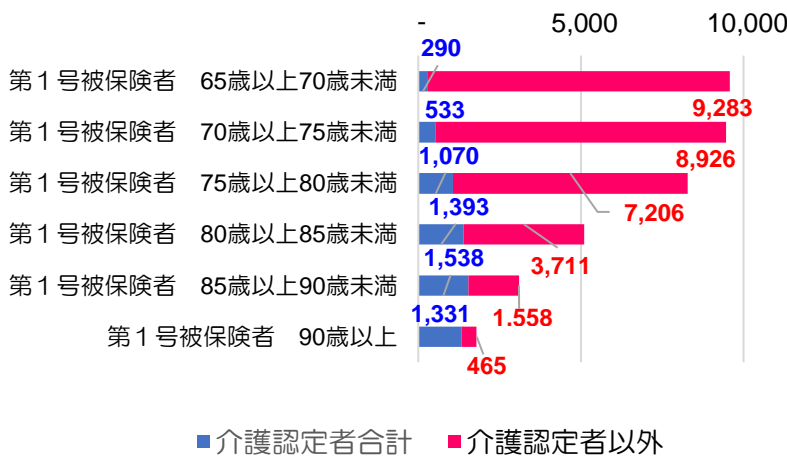
資料 2(1) データからみる民生・児童委員の取り巻く地域の現状

木更津市の介護認定者数 H31.4月末



②
第2号被保険者は 40～65 歳未満で介護が必要な方。第1号被検者は、高齢者。5 歳きざみで、介護認定別に見ると、年齢とともに、介護認定者がふえ、介護度も重度になっていく。

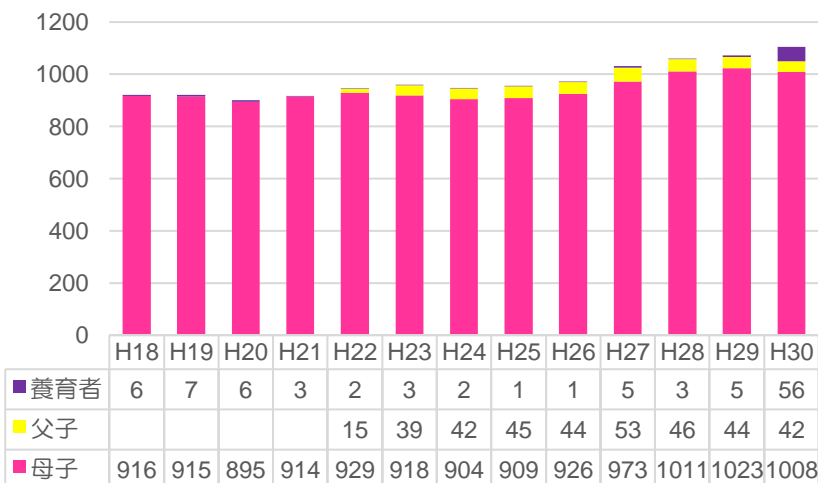
木更津市 同年代の高齢者でみた介護認定者数



同年代の高齢者の中で、介護認定者はどのくらい占めるのかをみると、85 歳を超えると、2人に1人は、介護認定者である。

D) ひとり親世帯

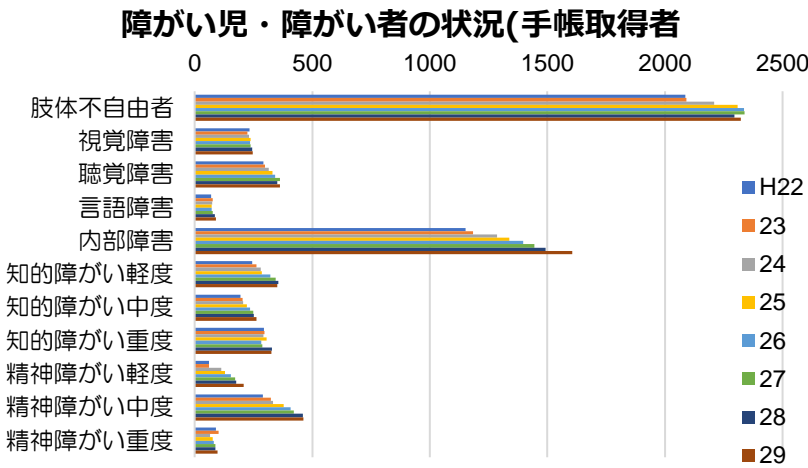
木更津市 児童扶養手当受給状況 (単位:世帯)



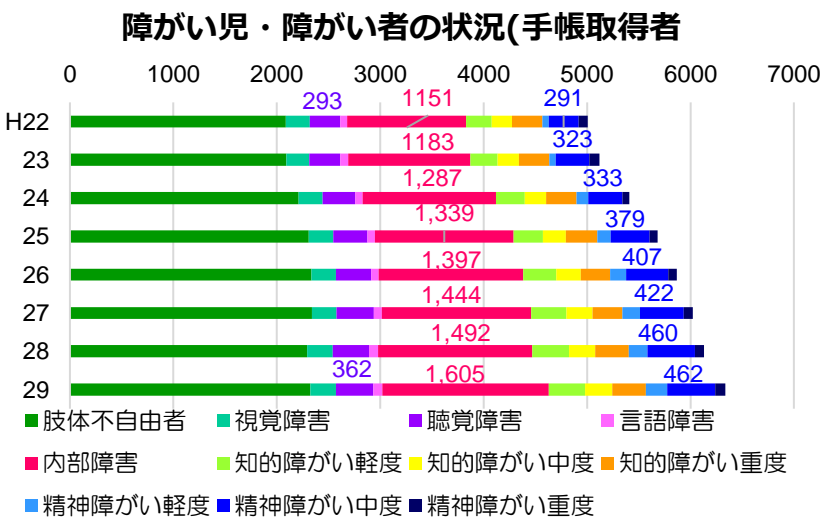
①
ひとり親世帯で、所得額によって、児童扶養手当が支給される。父子世帯へは、H22 年度から支給となった。年々、増加傾向。

E) 障がい児・障がい者・特別な支援が必要な子ども

出典:木更津市の統計



↓ 経年推移がわかるグラフにすると

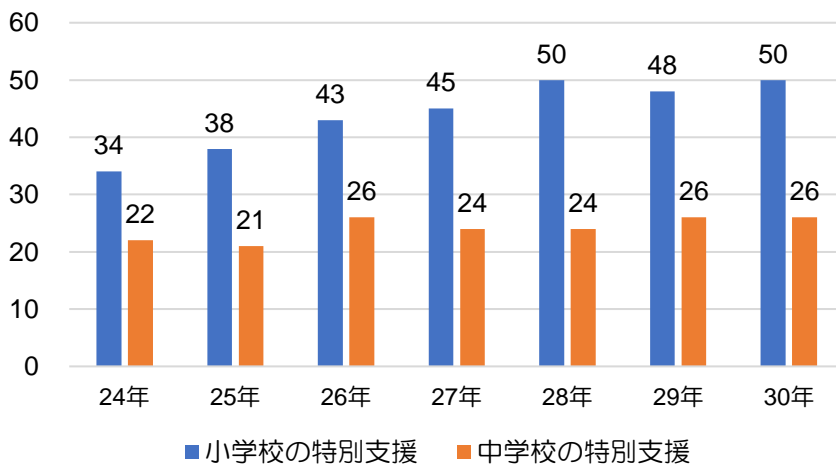


①
障がい者の多くは、肢体不自由者で増加傾向。
2番目に多いのが内部障がい。
内部障がいとは、身体内部の臓器に障害があることを指す。血液循環、血液浄化、呼吸、排泄、消化、免疫（感染防御）など、生命を維持するために重要な機能の障害

3番目に多いのは精神障がい中度。

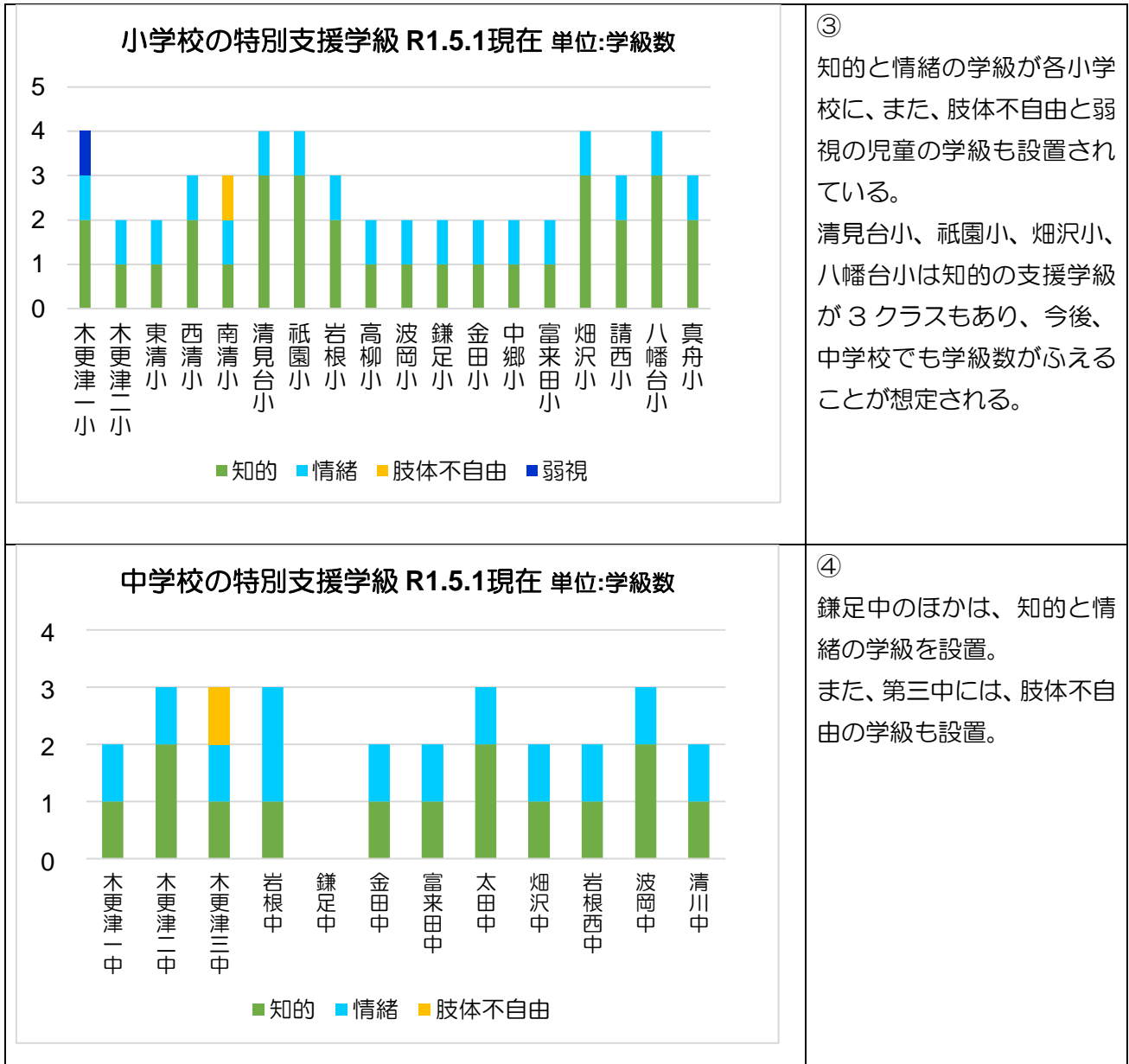
全体的にみると、特に、増加傾向なのは、内部障がい、そして、精神障がいである。

木更津市 特別支援学級数 単位:学級数



②
小学校が、増加傾向。

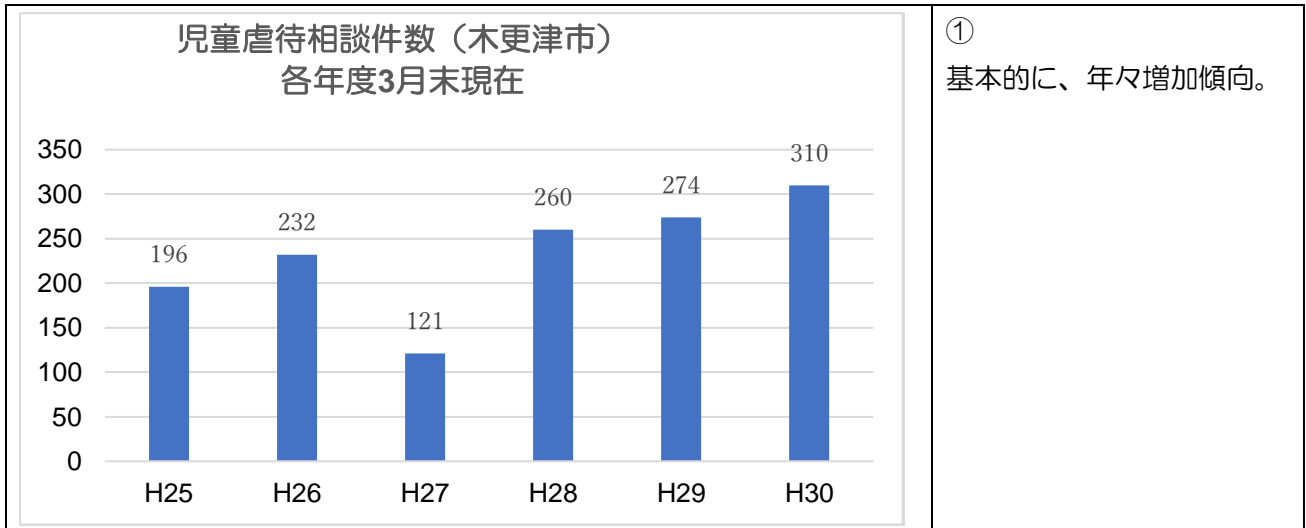
資料 2(1) データからみる民生・児童委員の取り巻く地域の現状



③ 知的と情緒の学級が各小学校に、また、肢体不自由と弱視の児童の学級も設置されている。
清見台小、祇園小、畑沢小、八幡台小は知的の支援学級が3クラスもあり、今後、中学校でも学級数がふえることが想定される。

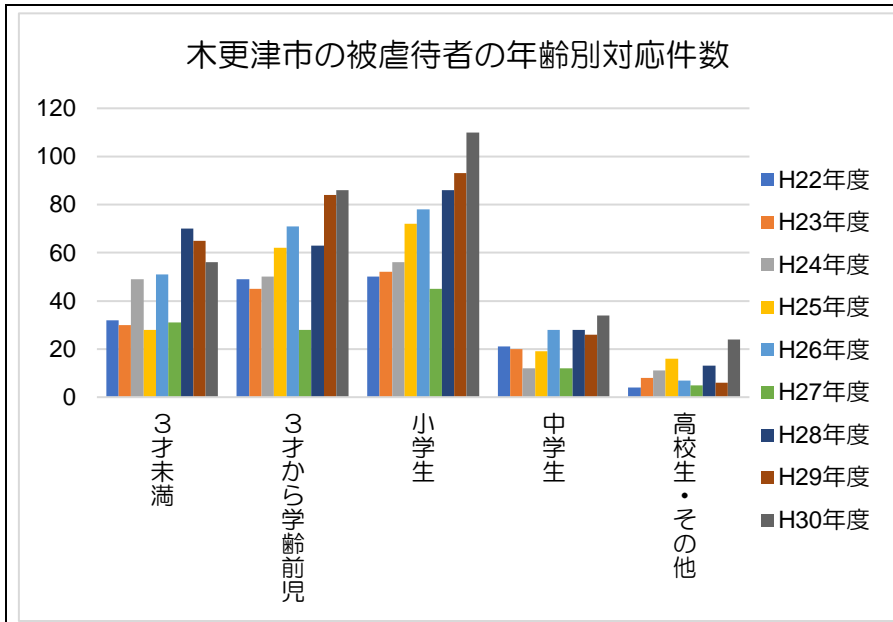
④ 鎌足中のほかは、知的と情緒の学級を設置。
また、第三中には、肢体不自由の学級も設置。

F) 児童虐待 出典: 木更津市における児童相談の状況



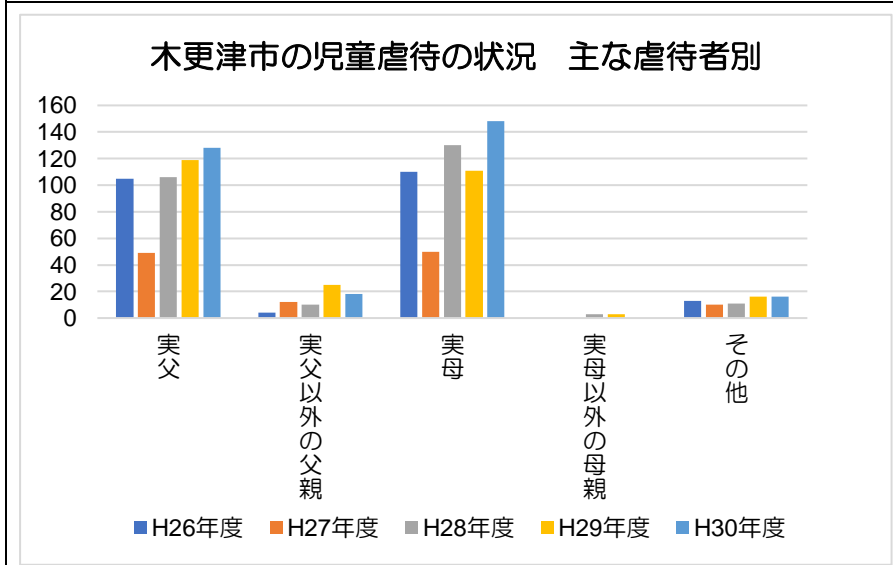
① 基本的に、年々増加傾向。

資料 2(1) データからみる民生・児童委員の取り巻く地域の現状

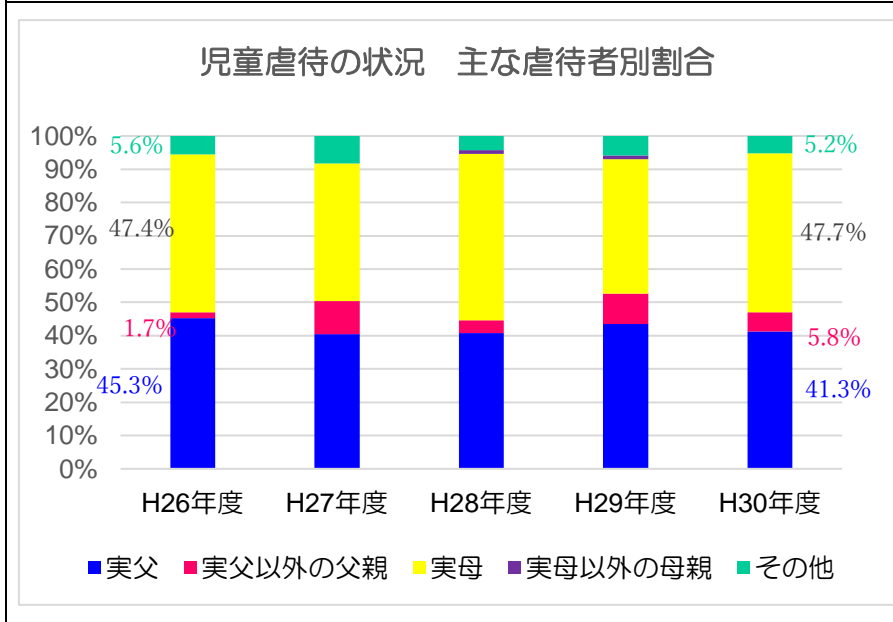


②
小学生と三才から学齢前児の増加が著しい。

中学生や高校生は、件数は少ないものの増加傾向。

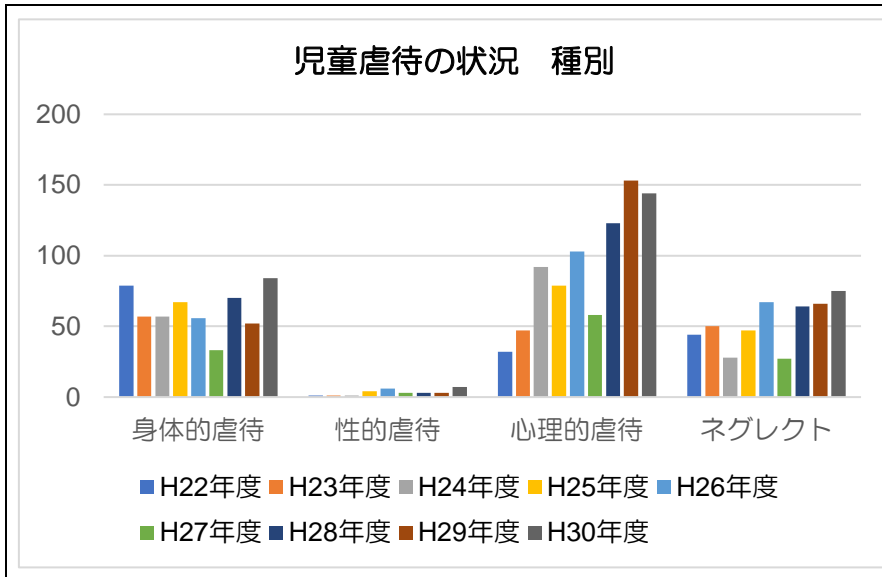


③
実の父、実の母による虐待が増加傾向。



④
虐待者は、
実の父の割合が減少傾向
実の母の割合が増加傾向

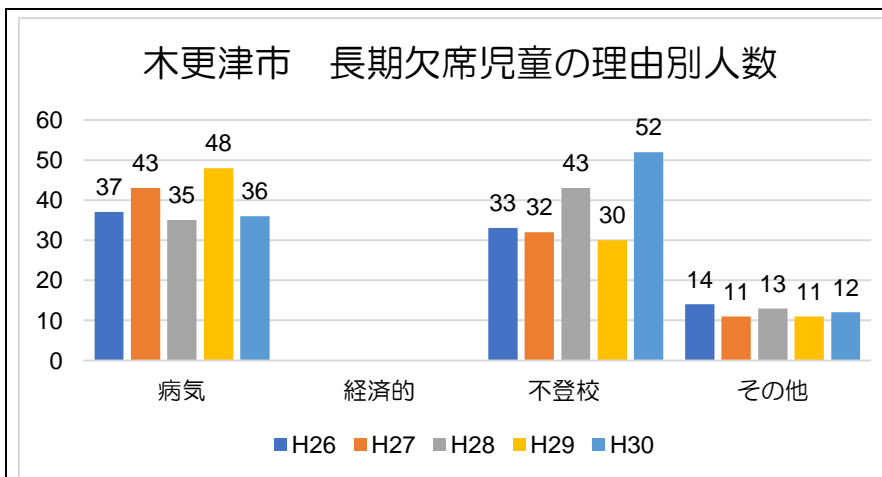
資料 2(1) データからみる民生・児童委員の取り巻く地域の現状



⑤
 身体的虐待は年により、変動がある。
 性的虐待は、本人の申告で初めて明らかになる。
 心理的虐待は、年々増加傾向。
 ネグレクトも、増加傾向。

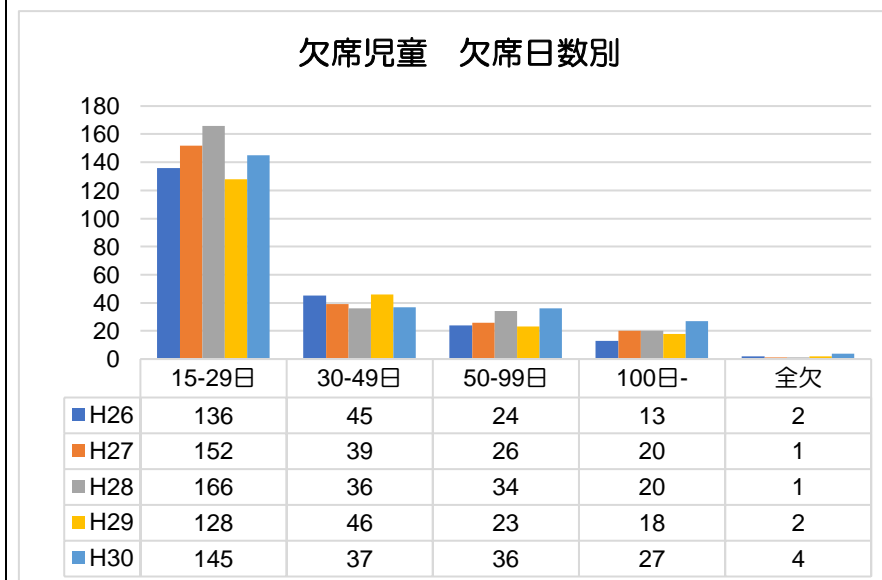
G) 長期欠席児童・生徒

出典: 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査



①
 長期欠席児童の理由で、経済的なものは、近年ない。
 不登校児童がH30年度は増加。

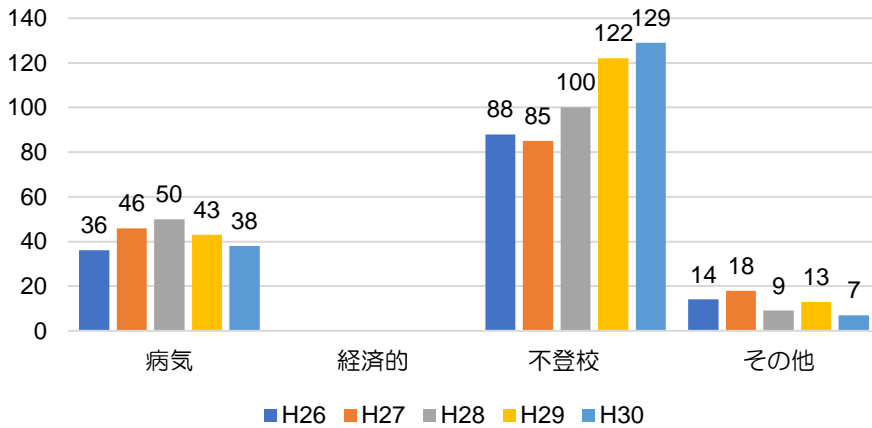
↓ 欠席日数別にみると、



15-29 日欠席の児童数は、毎年多いものの、長期欠席児童に至らない児童が多い。

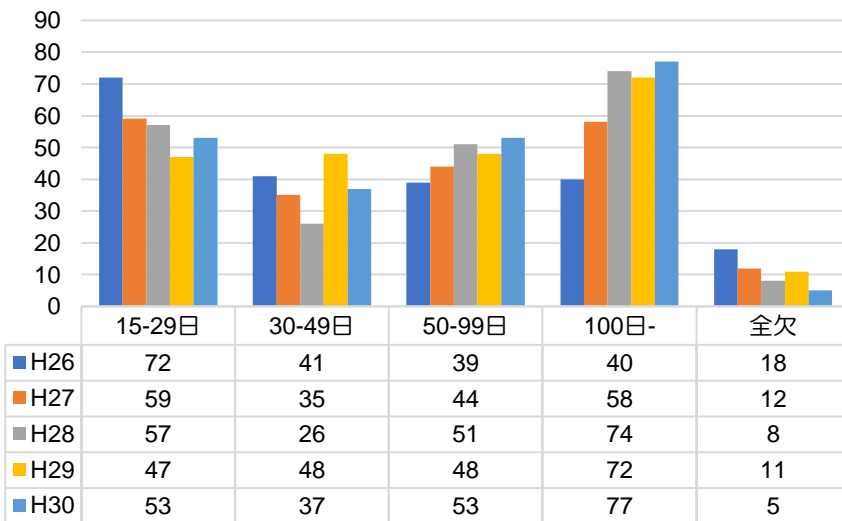
資料 2(1) データからみる民生・児童委員の取り巻く地域の現状

木更津市 長期欠席生徒の理由別人数

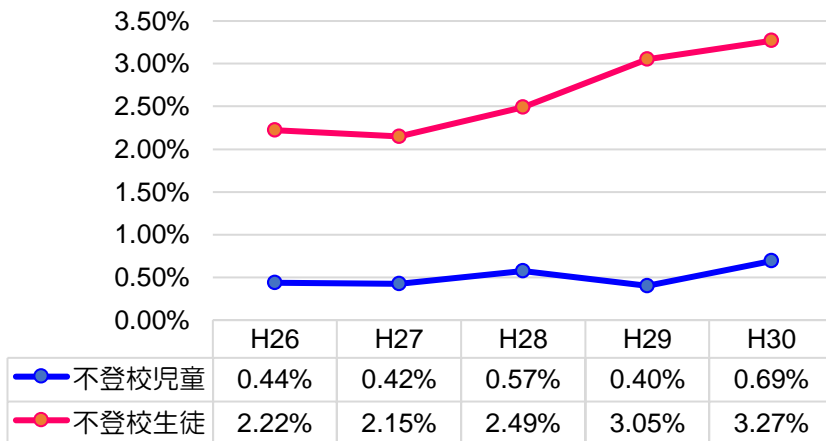


↓ 欠席日数別にみると

欠席生徒 欠席日数別



木更津市 不登校児童・生徒の割合



②

中学では、不登校の長期欠席生徒数が年々増加している。

長期欠席予備軍である15-29日欠席生徒より、欠席日数が多い生徒がだんだん増加している。長期欠席がより長期化している。

自宅、学校以外に、自分らしく過ごせる場が地域にあるかがポイントである。

③

不登校児童生徒の割合は、年々増加傾向である。全国平均より多い。

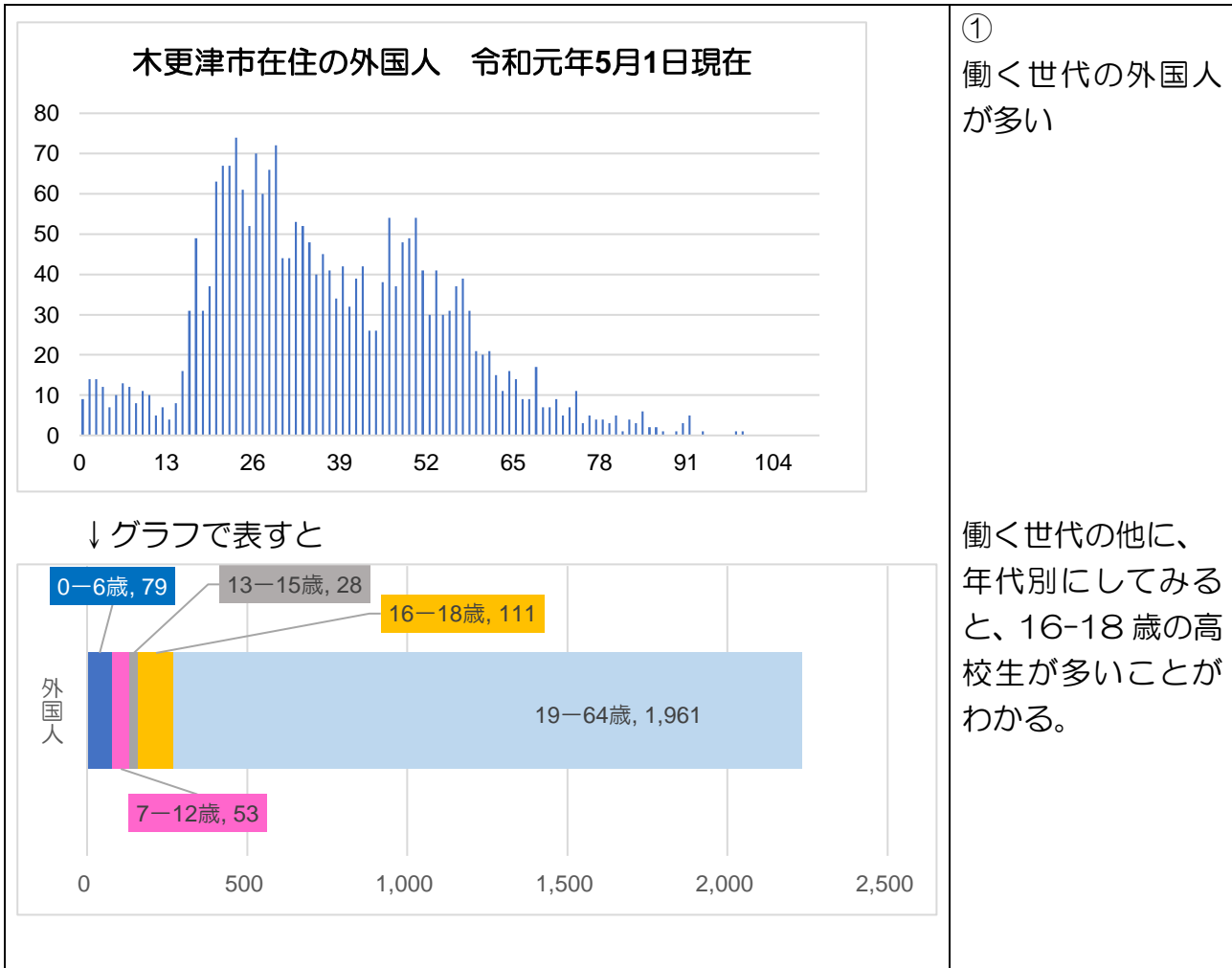
不登校児童生徒の割合(平成29年度)	
全国	
小学校	0.54% (185人に1人)
中学校	3.25% (31人に1人)
計	1.47% (68人に1人)

※全国集計結果について

④ 平成29年度とは「平成28年度間」のこと。

H) 外国人

出典：住民基本台帳



I) 妊産婦・母子保健

出典：木更津市

